

戦後 81 年 平和や命の大切さについて考える夏休みに！

8月6日（木）

本日8月6日は平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）が行われました。広島市では毎年原爆投下の8月6日に広島市中区の平和記念公園で営まれる平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）が行われます。原爆の犠牲者を追悼し、核兵器のない世界と恒久平和の実現を祈念する。式典は、原爆犠牲者のご遺族をはじめ、市民多数の参加のもとに行われ、この席上での広島市長の平和宣言は、国連加盟の各国元首をはじめ、全国の地方公共団体などへ送るとともに、インターネットを通じ全世界に発信し、核兵器廃絶と世界恒久平和の確立を訴え続けています。広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式典では、毎年こども代表の小学生広島市立高須小学校6年柿崎由宇さんと広島市立高南小学校6年河野和希さんが「平和への誓い」を読み上げました。

平和への誓い【全文】「平和への誓い」

もしも「大切なもの」が一瞬で消えてしまったら、どんな気持ちになるのでしょうか。

私たちが笑い合っているときにも、尊い命が失われている現状があります。

今もどこかで、当たり前前の日常がうばわれています。

ぼろぼろになった制服。

黒く焦げたお弁当箱。

それは、当たり前前の毎日を生きていた証です。

昭和20年（1945年）8月6日、午前8時15分。

たった一発の原子爆弾が、人々の暮らしを、人生を地獄に変えました。

髪は焼けちぢれ、全身の火ぶくれが破れ、火傷した皮膚が垂れ下がった人々。

「痛いよ。苦しいよ。」

「助けて、お母さん。」

「死にたくない。」

「助けてあげられなくてごめん。」

死んでしまうつらさ、生き続ける苦しみは、想像することさえ恐ろしいことです。

私たちには、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、

当時の記憶を事実として受け止める使命があります。

目をそらさず、知ろうとすること。

悲しい現実でも向き合うこと。

そこには、「生きたかった人々」、「生き続けた人々」の思いがあります。

私たちには、広島のごどもとして、行動する責任があります。

相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。

平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。

一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。

平和とは、誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。

ごどもである私たちも、その一員として平和への一步を踏み出します。

かけがえのない「大切なもの」を、確かな希望を、未来へ届けるために。

令和8年（2026年）8月6日

ごども代表 広島市立高須小学校 6年 柿崎由宇 広島市立高南小学校 6年 河野和希

何度も伝えていますが毎年8月6日（広島に原爆が投下された日）、9日（同長崎）、12日（日航機墜落事故）、15日（終戦記念日）は平和と同時に、命の大切さについて考える10日間だと思います。

〈保護者・地域の皆さんへ〉明日8月10日（月）から8月16日（日）までは学校閉庁日とします。本校職員は出勤いたしません。何かとご不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。